



だれに使うの？ なぜ使うの？ “女子大生ことば”

女子大生ことばや若者語が、テレビや新聞にしばしば取り上げられます。「アッシー君」や「イケイケ」、あるいは「超～」といったことばが、若い人たちによく使われているというのです。

女子大生たちは、これらのことばをどのように使っているのでしょうか。次のA、Bの2つの視点に立ってアンケート調査を行いました。

A 「だれに対して使うのか」

- ・ 父親
- ・ 母親
- ・ 親しい友人（女性／男性／両方）
- ・ 親しくない友人（女性／男性／両方）
- ・ （将来）会社の同僚
- ・ （将来）会社の上司

B 「なぜ使うのか」

- ・ 会話のテンポが良くなる
- ・ ノリがいい
- ・ 気持ちがよく伝わる
- ・ かっこいい
- ・ 自分も使いたい
- ・ 自分は使いたくない

調査対象者は武庫川女子大学の学生で、259人から回答を得ました。

調査でとりあげたことばは、下に示す13語で、これらは『すきやねん 若者語辞典—梅花女子大生のことば—』（米川明彦、1993年）で「よく使うことば」として取り上げられているもの20語のうちから選びました。

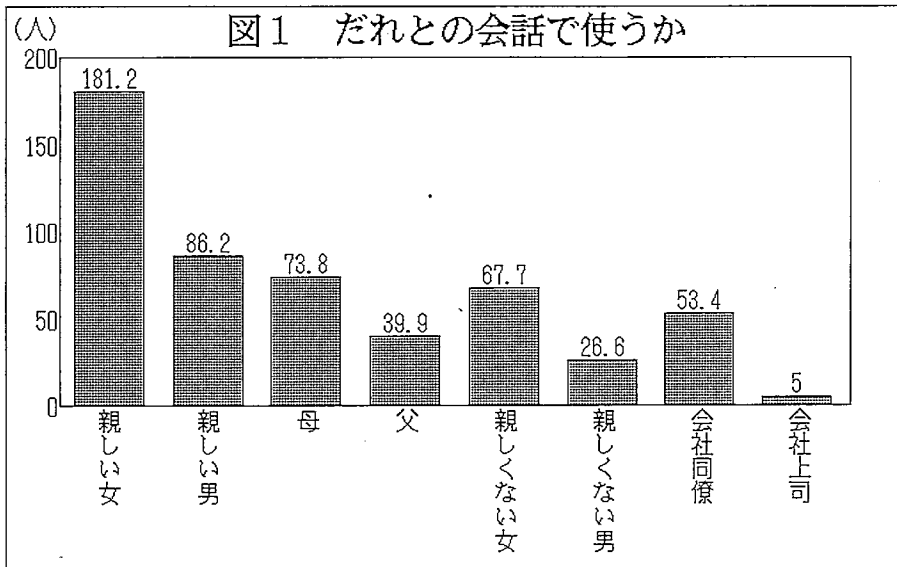
朝一、般教、終わっている、ぶっちする、けばい、すっぴん、爆睡、
きしょい、オタッキー、プー太郎、イケイケ、超～、お茶する

これらの各語について、選択肢の中から当てはまるものをすべて選んでもらい、結果を集計しました。以下に、その結果を報告します。

◆だれとの会話で使うか — 親しい友達に／母親は仲間／父親は論外

下の図1を見てみよう。これは、「だれとの会話でよく使うか」について、13の語の平均を示したものである。これから、次のことが見てとれる。

- ①親しい女友達が圧倒的に多い。それに親しい男友達はその半分ぐらいで追っている。親しくない友達との差は歴然。
- ②母親がかなり高い数値であることが注目される。それに比べて父親はいかに少ないか。親しくない女友達よりも低い。
- ③会社の同僚は父親以上の数値。上司は最低。



まず、①の親しい友達に対する使用が多いことから、女子大生ことばが親しい仲間間で使われるものであることが確認できる。逆に言えば、こうしたことばを使うほど、その相手の人とは親しい関係にあると推測することもできる。

そう考えると、②の母親の数値が高いことから、母親が女子大生にとって心理的に身近な存在で、母親との会話が、量的にも多くて質の点でも高いと推察される。子供と母親とが親しいのは当たり前と思われるかもしれないが、25年ほど前の“断絶の時代”を思い浮かべると、時代の変化の大きさを感ぜずにはいられない。もっとも、他方の父親のほうは昔と変わらず、いや、ひょっとすると、昔以上にひどい状態にある。娘にとって父親は、母親とは比べものにならないほど離れており、その位置は、親しくない女友達以上に遠いのだ。

また、③の実社会に出たあと、会社同僚に対しては使ってもいいが、上司には使うべきではないとの意識がある。同僚の場合は仲間として会話することを想定し、上司とはフォーマルな会話を想定しているのであろう。女子大生ことばをインフォーマルなことばとして認識していることのあらわれだと思われる。

◆なぜ、使うのか — テンポよく&気持ちを伝える

そのことばを使う理由では、たとえば「会話のテンポが良くなる」という回答をした人は、13語のうち最も少ないもので37人、多いほうは74人であった。これを表にすると次のようになる。

理由	選んだ人数の最低～最高
会話のテンポが良くなる	37～ 74
ノリがいい	17～ 49
気持ちがよく伝わる	20～149
かっこいい	0～ 9

これから、女子大生ことばは、どのことばもだいたい「会話のテンポがよくなる」という要素をもっているが、語によって、気持ちが伝わりやすいものとそうでないものがあるらしい、と言えそうである。

◆理由選択の2タイプ — 「けばい型」と「ぶっち型」

そこで「気持ちが伝わる」という理由に着目して、理由の選択パターンを分類してみた。すると、おおまかに2つのタイプがあるようだ。次の図2、3である。

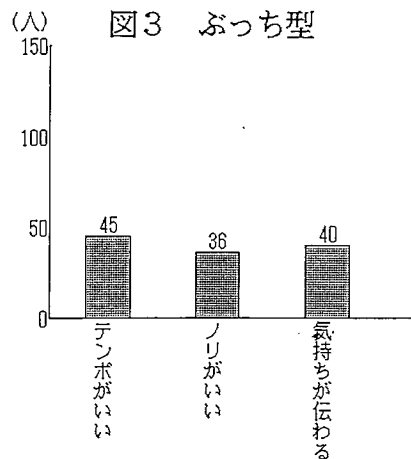
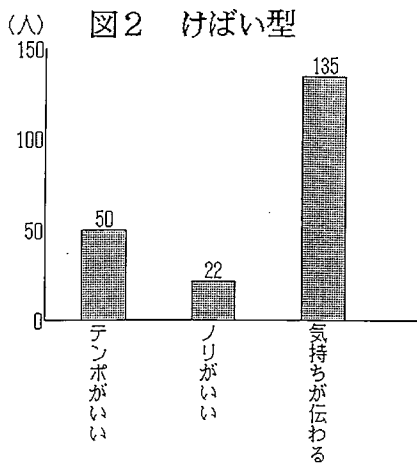


図2は、「けばい」のケースだが、「気持ちが伝わる」が突出しているタイプである。一方、図3は、「ぶっちする」の場合で、「気持ちが伝わる」がそれほど多くなく、3つの理由の差が比較的小さいタイプである。図2を「けばい型」、図3を「ぶっち型」と呼ぶことにして、13の語を両タイプに分類すると、次のようになる。

- 「けばい型」
 - けばい 爆睡 終わってる すっぴん 朝一 きしょい
- 「ぶっち型」
 - ぶっちする お茶する オタッキー プー太郎 イケイケ 超～ 般教

◆使いたくないことば — 「ぶっち型」

次に、「使いたくない」という回答が多かったことばを調べた。その結果、
使いたくないことば (60人以上が選択した語)

1.	ぶっちする	107人
2.	オタッキー	89
3.	超～	80
4.	きしょい	73
5.	イケイケ	72
6.	お茶する	71

これを先の「けばい型」「ぶっち型」と比較すると、「きしょい」を除いて、「ぶっち型」ばかりである。「気持ちが伝わる」を重視しない「ぶっち型」は使いたくないということになる。それだけ「気持ちが伝わる」が、女子大生がことばを使うときの大事な要素だということであろう。

◆嫌われながらも仲間内で使ってしまうことば

ところで、女子大生ことばが仲間内のことばとすれば、親しい女子大生の間だけで使うのが最も“女子大生ことばらしいことば”ということになる。そこで、「親しい女友達に対してだけ使うという人の比率」を調べた。その結果、その比率が30%を越えることばは、次の5語であった。

★ 1.	ぶっちする	46.8%
★ 2.	お茶する	43.1
	3. 爆睡	36.8
★ 4.	超～	31.9
★ 5.	イケイケ	31.3

★をつけた4語が、上の使いたくないことばと重なっている。このことから、使いたくないと嫌われる一方で、仲間の間では使ってしまう。それが女子大生ことばの本質の一面なのである。

..... あとがき

..... 1994. Nov.

『LCリポート』第2号をお届けします。今回は「女子大生ことば」です。
女子大生ことばについての女子大生の意識を調査しました。結果の概要は上記の通りですが、これら以外にもいくつか興味あるデータが得られました。くわしい分析は、当研究所の年報第6号で述べる予定です。

最後に、アンケートに協力してくれた学生の皆さんにお礼申し上げます。

担当 言語文化研究所 佐竹秀雄・岸本千秋